

日本学士院

第48回公開講演会

入場

無料

- 日時 平成20年5月31日(土)
午後1時～4時10分
- 会場 北海道大学
学术交流会館 小講堂
- 定員 180名
- 共催 北海道大学
- 後援 北海道

「地震」を考える

■開会挨拶

濱 清 公開講演会委員会委員長

佐伯 浩 北海道大学総長

■講演内容

①「地震予知の現状について」

上田誠也 (地球物理学)

日本学士院会員 東京大学名誉教授

○司会 横山 泉 会員

②「災害の経済的損失」

貝塚啓明 (財政学・金融論)

日本学士院会員

京都産業大学客員教授

東京大学名誉教授

○司会 水田 洋 会員



(上田誠也 会員)



(貝塚啓明 会員)



昔、大地震の原因は、鯰(なます)の仕業と考えられていました。
この絵は、地震を起こした大鯰を懲らしている人々と、それを止めに入る職人達(左上)の様子を描いています。(東京大学地震研究所所蔵)

日本学士院

第48回公開講演会

①「地震予知の現状について」

上田 誠也

多岐にわたる大地震の災害の中でも、各市民にとってもっとも切実なのは自分や親しい人びとの死であろう。地震による死はその大部分は建造物の倒壊によるもので、それは地震発生の数分以内、すなわちいかなる救援活動も始まる前におこる。これから身を守る決め手は、建造物の耐震強化と「短期」地震予知以外にはあるまい。本講演では後者について考察する。

「短期」地震予知を行なうには、何らかの信頼できる前兆現象をとらえなければならないが、それらの存否や観測可能性などの基本的問題については研究者の間で見解が分かれている。地震学を専門とはしないが、短期予知に関わる地球化学・水文学・地球電磁気学・固体物理学・電波科学などの研究者には肯定論が多いが、予知計画に中心的役割を担う地震学者は否定的である。この意見の不一致はいくつかの原因が考えられるが、地震予知研究進展の大きな妨げになっている。かかる事態を招来した背景事情と今後のありかたなどについて私見をのべる。

②「災害の経済的損失」

貝塚 啓明

自然災害（地震、火山噴火、津波など）は、大きな社会的影響をもたらす。例えば、関東大震災（1923）は、大きな人的被害にとどまらない衝撃を日本社会に与えた。日本社会は、首都東京を中心に麻痺した状況に落ち込んだ。その後、第二次大戦による経済的被害は、大きなものがあつたが、自然災害とはいえない。ここでは、最近の災害（阪神・淡路大震災や中越地震など）を中心に、経済的被害（建築物、インフラ関係、ライフライン施設への被害）の大きさを説明する。また、歴史的に有名なリスボン大地震や諸外国の最近の自然災害の被害をできる限り言及する。人命損失は、単なる経済的損失ではないので、その評価は簡単ではないことも議論したい。

お申し込み お問い合わせ先

日本学士院 公開講演会係

〒110-0007 東京都台東区上野公園7-32

TEL:03-3822-2101 FAX:03-3822-2105

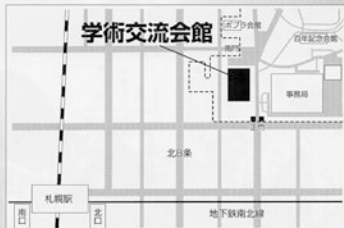
e-mail:kouenkai@japan-acad.go.jp

※事前にお申し込みが必要です。

＜お申し込み方法＞

ホームページ、e-mail、ファックスまたは往復はがきのいずれかの方法で住所、氏名、電話番号、メールアドレスを記載して、上記の連絡先にお送りください。なお、お席に限りがございますので受付は先着順とさせていただきます。予めご了承ください。

本院HP (<http://www.japan-acad.go.jp/>)
からもお申し込みできます。



会場案内図 (JR札幌駅北口より徒歩10分)

札幌市北区北3条西5丁目 北海道大学学術交流会館
TEL:011-706-2141

※お車でのご来場はご遠慮願います。